

## 「自然」に向ける高校生たちの目

和光高校 森 下 一 期

高校生は環境問題に非常に敏感です。いろいろな場面でそれを知ることができます。和光高校でのいくつかの取り組みを通してそれを見てみましょう。

### 1. 総合学習の中で

和光高校では「総合学習」という授業を必修で週2時間ずつ3年間教えています。1年生の授業の最初に「現代の暮らし」の問題で新聞の切抜きをする課題を出したら、7割近い生徒が環境問題に関わる記事を選びました。(この授業の2年生のテーマが「環境と人間」という環境教育そのものを取り上げています。しかし、私は教えていないので、その授業を紹介できないのが残念です。)それらを発表したあとの感想に次のようなものがみられます。

「今日の問題は環境破壊(自然関係)の問題がやけに多いと思った。例えば、山林の破壊、ゴミ問題、水の問題、etc。僕は環境問題については自分達の責任だと思います。だから自分達で責任を取るべきだと思う。少しでも自分達のできることからやっていくべきだと思う。例えば、割り箸を使わずに自分の箸を持ち歩いたりする。そうい身近なところから始めていきたいと僕は思う。」

「私たちの生活をとりまく問題を知って、環境破壊が多く出ているなど思った。水といい、山林といい。人間は普段自分が『今、地球の上にいる』ということをおぼえている

から知らぬ間に地球が汚れてきているのかも知れない。皆が『自分は地球人だ』という認識を常に持っていたら今の世の中、地球の様子は変わっていたかも知れない。」

この授業では、食生活を通して暮らしの問題を考えるようにしているのですが、私は食べるとか、栄養とかいった事柄だけでなく、私たちの食生活が成り立っている背景にも目をむけたいと考えました。そこで、「ハンバーガーの授業」(千葉保『日本はどこへ行く』所収)を教材に使ってみました。何よりも驚くのはハンバーガーをつくるための肉牛の多くが南米で飼育されていて、その牧場が森林を伐採してつくられていることです。グアテマラでは森林面積が20年間で半分にもなっているというのですから。それでいて、南米諸国の牛肉消費量は減少しているといわれます。15分たったら捨ててしまうというマクドナルドの商法にも多くの疑問が出されるのですが、やはり食生活の問題が環境問題に直結していることに驚くようです。

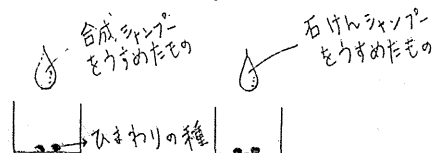
### 2. キャンプの中で

和光高校では1年生の7月に、3泊4日のキャンプを行っています。すでに20年以上続いています。テントを学校から運び(事前にトラックを使うのですが)、自分たちで建て、かまども作るといったかなり本格的なものです。以前は登山がメインとなっていた

ましたが、キャンプ場の条件などから全員登山はなくなっています。自然に接すること、生活を自分たちで作ることに重点があります。それにしても、6クラス250人がいっせいにテント生活をするところから出てくる問題が数多くあり、キャンプの是非が論議になっていきます。それはそれとして、多くの生徒たちは自然の美しさやさわやかさに感動するのですがそれだけでなく、環境問題にも目を向けていきます。

事前の準備の中では、自然への影響が問題となります。これは、保健係の中で話題になったことですが、シャンプー使用の是非が問題となりました。生徒が出したプリントを紹介しましょう。

「CAMPでのシャンプー使用について  
・なぜ合成シャンプーは使用禁止なのか  
もうすぐキャンプにいきますが、自然の中での生活です。いろいろ不便なこともおいでしよう。そのなかで、シャンプーのことについては、みなさんもとくに気になっていることでしょうか。保健係としては、洗髪をすることについては認めています、石鹼シャンプーのみ使用できるということになりました。それでは納得いかないという人のために、なぜ合成シャンプーがいけないのか説明しようと思います。ある人がこんな実験をしました。



上のように、ひまわりの種に合成シャンプーを薄めたものと石鹼シャンプーを薄めたものを水のかわりにあたえた場合、何日

かたって、石鹼シャンプーのほうが芽が出てきたのに合成シャンプーのほうは芽が出てこなかったという実験結果が出されています。この実験でわかったように、合成シャンプーは自然にとってはとても悪い影響を与えるのです。まして、300人近くの人が自然の中でシャンプーを使い、水穴などに流したら、そこからシャンプーの成分が川にしみだすなどして、自然破壊をおこしてしまいます。それにもし、合成シャンプーなどの成分を含んだ水で稲などを作ったりしたら、私たちの体にまで悪影響がまわってくるのです。それならば、石鹼シャンプーはまったくの無害かということではないのです。自然にあたえる影響が少ないだけで、川に流すなどということをするれば立派な自然破壊といえます。だから、川でシャンプーをするのは絶対にやめてください。自然破壊というのは最後には私たち自身にまわってくるものです。それを今回のキャンプを機会に一人ひとりが考えて、楽しいキャンプが過ごせるようにしましょう。

〔石鹼シャンプーをクラスで2本保健係が用意します〕

キャンプから帰った生徒たちの感想には次のようなものがあります。

「キャンプに行く前は、お風呂は三日間は入れないし、大変なだけなんじゃないかと思っていました。でも本当に帰ってきてみると行ってよかったと思いました。

現地についてみると、想像どおりの緑いっぱい、本当の山の中という所でどんな生活になってしまうのだろうと期待しました。

そこは本当に、唯一人間の作ったものは水道だけでした。この中で上手に食事作りができるのだろうかと思いました。

確かに食事作りは大変でした。水はバケツで運んでこなくては使えないし、テーブルはないし、材料にも灰がすぐにくっついてきてきりがなくて、今まで用意されていたものだけを食べていた私にはすごい体験でありました。でも、自分達で力をあわせて作った食べ物は、お腹がすいていたせいかもしれませんが、とてもおいしかったです。それに、料理を作ることに自信ができました。

このキャンプで、人間は地球を汚しているんだなぁと思いました。山の中にある川はとてもキレイでとても冷たくて、日本にもまだ、こんなにキレイな川があるんだなぁと思いました。この川を私が汚くしてるんだと思うと悲しくなりました。川だけでなく、夜に空を見るとたくさんの星がきれいに見えました。星がこんなにたくさんあるのかと知りました。それだけではありません。午後になると日が昇りとても暑くなるのですが、むしむし暑いのではなくカラッと日ざしが熱かいという感じで、気持ちよくなって、川辺の石でぐっすり眠ってしまいました。そのおかげで腕が真っ黒にやけてしまいました。環境汚染について少し真剣に考えなくては、と考えさせられました。

また、都会でふれあることの出来ない自然にふれることができました。普段家では、虫一匹にもびくびくしていたのですが、キャンプで二日もたてば虫の二匹や三匹へっちらになってました。とても心に残るキャンプでした。」

「火を起こすことを、片手で、ほんの一瞬にして終わらせてしまう私たちにとって、まきから火を起こすことは容易ではなかった。ほとんど男の子達に火を起こしてもらっていたが、女の子たちが火を起こす機会があり、その時とても苦労したのが印象的だ。火を起こすだけで一時間近くかかったと思う。昔の人はこれだけ苦労して火を起こしていたと思うと、今の時代にうまれてよかったと思う。けれどここまで文明が発達するまでどれだけのものが犠牲になってきたのだろうか。

キャンプを通じて自然のことを考えた。私たちがキャンプを運営していくのにどれだけの木が使われたのか。どれだけの有害なせっけん水がながれていったのだろうか。私はこのようなことが気になって仕方なかったが、クラスのみんなどはあまり気にしてないようだった。けれど、透明な水が流れる川が、だんだん濁っていくのを、緑色した山の木が茶色になり枯れていくのを想像すると悲しくなり、それと同時に怖くなる。自然の中にいると、こういうことばかり考えてしまう。みんなは自然をどう感じたのか。何も感じなかったのか。

いつもクーラーにあたって悠々自適の生活を送っている私たちが何もない不便な場所へ行って苦労をすると、母親のありがたさ、家のありがたさが、しみじみ伝わってくる。そんなことが、このキャンプでわかった。」

感想の紹介のようになってしまいました。このように、環境問題にふれているものが少なからずあります。自然の美しさや素晴らしさにふれる生徒も多いのですが、

このように正面から自然破壊、環境の問題を考えるようになったのは最近のような気がします。

### 3. 生産、流通、消費、廃棄のサイクルに目を向けて

高校二年生では、「現代社会と技術」という選択授業をしています。現代の科学技術の発達によって社会や労働がどう変化してきたか、といったことを自分たちで調べたり、見学したりして学んでいくことを内容としています。技術の発達というともすると、「生産」に目がいきがちです。作った物がどうなるのか、ただ、安く作られればよいのか、また、流通や消費の場から出た問題がどのように生産に関係しているか、などを見通して、生産、流通、消費、廃棄のサイクルの中で生産の技術についても考える必要があります。そのような観点も入れてトヨタ自動車、家具製作場、製糸工場、東芝などの工場を見学する旅行に生徒を連れていきました。ある生徒の感想ですが、このような、環境へ向ける目も持っています。

「今回、現代社会と技術の研究旅行に参加し、大変多くのことを学ぶことができました。製糸工場や松本城等の日本の文化に近いことや、近代的なトヨタ工場や、Toshibaというふだんでは見学できないような所も見学することができ、僕自身このチャンスを大切に思い、一つひとつを確実に学んでいこうと考え、この研究旅行に取り組みました。

とくに、その中でも多く耳にした言葉は環境についてであったように感じます。トヨタ工場、オーク・ヴィレッジ、Toshibaに

いたっては会社全体、大掛かりなものとなっていました。

今、地球では各国で問題になっていて、最近急に多くの人がこの問題について考えるようになりました。環境問題にはこまかく分かれているように思われていますが、ほとんどのものはすべてつながりがあるように思います。まず工場やゴミ処理場の煙の一酸化炭素やフロンガスによる大気汚染、フロンはオゾン層を壊し、それにより直射日光による温暖化、大気汚染により酸性雨が降り、植物が減る。このようにつながりが多いことがわかります。ゴミ問題も焼けば一酸化炭素、埋めればメタンガス発生、埋め立て地等も問題になっています。

人間は、水、空気、太陽がないと生きられないので、問題になっても当然だと思います。この他、多くの環境問題を、みんなでどうにかしなければなりません。やはり企業としても環境問題に対してそっせんして取り組んでいかなければならない立場にあり、実際取り組んでいます。このような企業と民間のつながりが大事なように感じます。僕も、トヨタ、Toshibaを見て、あらためて実感しました。これからは環境悪化からふつうにし、改善していければというのが理想です。」

断片的な紹介に終わりましたが、環境問題は学校での取り組みの様々な場面で何等かの形で関わっているように思います。「環境教育」がどのようなものか、まだ、あまりはっきりしていないようですが、実践しながら具体的な形にしていくことが大切であるように思います。